

安全データシート

作成日 2019年7月22日

1.化学物質等及び会社情報

化学物質の名称	流動パラフィン
会社名	東工業株式会社
住所	東京都中央区東日本橋2-16-7 ANNI東日本橋ビル6F
担当部署	八潮工場
住所	埼玉県八潮市木曾根744
電話	048-996-9235
FAX	048-997-2597
原料メーカー	Sonneborn.LLC

2.危険有害性の要約

GHS分類		
物理化学的危険性	引火性液体	区分外
	自然発火性液体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分外
	皮膚感作性	区分外
	生殖毒性	区分外
	特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）	区分1 (肝臓、腸間膜リンパ節)
	吸引性呼吸器有害性	区分1
環境に対する有害性	水生環境慢性有害性	区分4
ラベル要素		
絵表示又はシンボル		



注意喚起語

危険

危険有害性情報	飲み込んで気道に侵入すると生命に危険の恐れ 長期継続的影響により水生生物に有害の恐れ 長期にわたる又は反復暴露による臓器の障害 (肝臓、腸間膜リンパ節)
注意書き	
安全対策	ミスト/蒸気を吸入しないこと。 取扱い後は手をよく洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。
応急措置	飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。 無理に吐かせないこと。
保管	施錠して保管すること。
廃棄	内容物や容器を廃棄する場合は、関連法規および地方自治体の基準に従って廃棄すること。
その他の危険有害性情報	特記事項なし

3.組成、成分情報

単一成分・混合物の区別	単一成分
化学物質	
化学名又は一般名	流動パラフィン (酸化防止剤として、ビタミンEを添加)
別名	white Mineral Oil
分子式	$C_nH_{(2n+2)}$
化学特性 (化学式又は構造式)	
CAS番号	8042-47-5
官報公示整理番号 (化審法/安衛法)	9-1692

4.応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹼で洗うこと。 気分が悪い時は医師に連絡すること。 汚染された衣類を再使用する時は洗濯すること。

眼に入った場合	<p>水で数分間注意深く洗うこと。</p> <p>コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当てを受けること。</p>
飲み込んだ場合	<p>直ちに医師に連絡すること。</p> <p>口をすすぐこと。</p> <p>無理に吐かせないこと。</p>
予想される急性症状及び 遅発性症状	<p>飲むと下痢、嘔吐する可能性がある。</p> <p>ミストを吸入すると気分が悪くなることがある。</p> <p>遅発性症状のため、少なくとも48時間は医師の観察下におくこと。</p>

5.火災時の措置

<p>消化剤</p> <p>使ってはならない消化剤</p> <p>特定の危険性有害</p>	<p>粉末消化薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂</p> <p>棒状放水を用いてはならない。</p> <p>熱、火花及び火炎で発火する恐れがある。</p> <p>激しく加熱すると燃焼する。</p> <p>火災時に一酸化炭素等の毒性ガスを発生する恐れがある。</p>
特定の消化方法	<p>消火作業は風上から行い、周囲の状況に応じた</p> <p>滝せつな消化方法を用いる。</p> <p>関係者以外は安全な場所に退去させる。</p>
消火を行う者の保護、 その他の予防措置	<p>消火作業では適切な保護具を着用する。</p>

6.漏出時の措置

<p>人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置</p>	<p>作業の際には適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)</p> <p>を着用する。</p> <p>関係者以外の立ち入りを禁止する。</p> <p>屋内の場合は立入る前から処理が終わるまで十分</p> <p>に換気を行う。</p>
環境に対する注意事項	<p>流出した製品が河川等に排出され、環境への影響</p> <p>を起こさないように注意する。</p>

回収、中和、封じ込め及び浄化	少量の場合は土砂、ウエス等に吸収させて空容器に回収し、その後完全にウエス等で拭き取る。 大量の場合は、盛土で囲って流出を阻止し、安全な場所に導いてから流出物を掬い取るか、又は適当な吸収剤を使用して回収する。
二次災害の防止策	付近の着火源となるものを速やかに取り除く。 関係先に通報し、応援を求める。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	発散したミストを吸い込まないようにする。 適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
局所排気・全体換気	取扱いは換気の良い場所で行い、できるだけ局所排気または全体換気装置を使用する。
注意事項	みだりにミストが発生しないように取り扱う。
安全取扱い注意事項	特記事項なし
保管	
技術的対策	消防法の規定に従うこと。 施錠して保管すること。
保管条件	直射日光を避け、暗所にて保管する。
混触危険物質	強酸化剤。
容器包装材料	金属又はガラス容器を使用すること。樹脂容器は種類により溶解することがある。

8.暴露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない。
許容濃度（暴露限界値または生物学的暴露指標）	
日本産業衛生学会（2011）	3 mg/m ³ （鉍油ミストとして）
ACGIH（2011）	TWA5.0 mg/m ³ （鉍油ミストとして）
設備対策	ミストが発生する場合は局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	ミストが発生する場合は防毒マスク（有毒ガス用）を着用すること。
手の保護具	保護手袋を着用すること。

眼の保護具	保護眼鏡を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	保護服を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

9.物理的及び化学的性質

物理的状态	
形状	粘性を有する液体
色	無色透明
臭い	無臭
pH	該当しない
融点・凝固点	-24°C (流動点)
沸点、初留点及び沸騰範囲	>230°C
引火点	120°C以上 (ASTM D92)
自然発火温度	260-371°C
燃焼性 (固体、ガス)	該当しない
爆発範囲	データなし
蒸気圧	<0.008 kPa (20°C)
蒸気密度 (空気 = 1)	データなし
蒸気速度 (酢酸ブチル = 1)	データなし
比重 (密度)	0.829-0.859 (25°C/25°C)
溶解度	水/不溶 有機溶剤/可溶
オクタノール/水分配係数	log P > 6
分解温度	データなし
臭いのしきい値	データなし
粘度	11-14 mm ² /s (40°C)

10.安定性及び反応性

安定性	通常取り扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤と反応する可能性がある。
避けるべき条件	直射日光、高熱、火炎、火花等の着火源を避ける。
混触危険物質	強酸化剤との接触を避ける。
危険有害な分解生成物	燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素や微量の炭素化合物、煤が生じる。

11.有害性情報

経口	ラット経口 LD50 > 5000 mg/kg により、区分外
経皮	動物試験データなし。 類似物質からの推定値 経皮 LD50 > 5000 mg/kg により、分類できない。
吸入	ミスト LC50 > 2.46 mg/L ただし、動物種、暴露時間が不明により、分類できない。
皮膚腐食性・刺激性	ウサギ非希釈液 24 時間 Draize 試験において皮膚刺激が認められないことから、区分外。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	ウサギ (4 匹) Draize 試験において、眼刺激性が認められないことから、区分外。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性においては、データなし。 皮膚感作性は、モルモット maximization 試験において感作性が認められないため、区分外。
生殖細胞変異原性	マウス 5178Y 細胞 forward mutation 試験においては陰性だが、in vivo 試験のデータがないため、分類できない。
発がん性	マウス経皮発がん性試験において発がん性なし。 イヌ、ウサギ、ラット吸入暴露にて発がん性なし。 腹腔内投与による発がん性の判断が困難なため、分類できない。
生殖毒性	雌雄ラット一世代試験において、生殖指標への有害影響なし、仔動物への影響なし。 各種動物発達毒性試験 (経皮、経口、吸入暴露) において、母動物の生殖指標への影響なし、仔動物の生存・発達への影響なし。 ラット強制経口一世代試験及び発生毒性試験において有害影響なし。 各種試験において、高用量でも影響が認められていないため、区分外。
特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	データなし。
特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	ラット反復経口投与試験において、低粘度品で肝臓、腸間膜リンパ節への影響。 ラットエアロゾル暴露において、肺への影響を示唆する報告有り。 本製品は、低粘度品に相当するため、区分 1。

吸引性呼吸器有害性

オイルの吸引により脂質性肺炎や脂質性肉芽腫を生じる可能性がある。

液体を肺に吸引した場合、化学性肺炎を生じる可能性がある。

上記知見および本製品の物性が判定基準に合致するため、区分1。

12.環境影響情報

生態毒性・急性有害性

魚類以外のデータなし。

潤滑油の内、主な炭素数が15～50の範囲の炭化水素について、急性水生毒性は無いと推測される。との記載。

魚類、甲殻類、藻類ともに分類できないので、急性水生毒性全体としても分類できない。

生態毒性・慢性有害性

データなし。

残留性・分解性

難分解性

生態蓄積性

推定log P：>6

13.廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にすること。

残余廃棄物は、関連法規および地方自治体の基準に従って廃棄すること。

廃棄を委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

この場合、危険性、有害性を十分告知すること。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規および地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分すること。

廃棄を委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

この場合、危険性、有害性を十分告知すること。

14.輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

該当しない

航空規制情報

該当しない

国内規制

陸上規制情報

消防法 危険物

海上規制情報

船舶安全法 非危険物（個別運送、ばら積み運送
において）

航空規制情報

航空法 非危険物

特別の安全対策

漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確
実にを行うこと。

15.適用法令

労働安全衛生法

該当しない

毒劇法

該当しない

化学物質排出把握管理促進法

該当しない

消防法

危険物 第四類 第三石油類（非水溶性）

水質汚濁防止法

排出基準 該当する

N-ヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量）許
容濃度 5 mg/L

海洋汚染防止法

有害液体物質（Y類）

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物規制（拡散、排出の禁止）

食品衛生法

食品添加物公定書の流動パラフィン使用基準に
より、パン生地での分割及び離型の目的以外に使
用してはならない。

16.その他の情報

記載内容については、現時点での資料や情報に
基づいて作成されたものであり、記載のデー
タや評価にかんしては情報の完全さ、正確さを保
証するものではないことをご了承ください。

すべての化学製品には、未知の有害性がありう
るため、取扱いには細心の注意が必要です。

ご使用者各位の責任において、安全な使用条件
を設定くださいますようお願いいたします。